



川の水のゆくえはどうなるの

雨水が川の水になる

地表に降った雨の多くは、蒸発したり、地表を流れて、川の源になったりしますが、一部は地下にしみこんだ後、ふたたび地表にわき出して、小さな流れをつくります。

日本の各地で生まれた、たくさんの流れは、山のしゃ面を下り、滝になって落ちたりしながら、けい流となって、だんだん大きな流れの川になっていきます。

川がさらに流れていくうちに、ほかの川と合流して、川はばが広く、水の量が多くなって、広い平野を流れるようになります。

川の水の一部は、湖や池などに流れこみ、残りは海へと流れていきます。

川の水は、空と陸や海との間をめぐっている

流れている川の水、湖や海などの水、そのほかの地表のいろいろな所の水が、太陽に暖められて水蒸気になり、上空で雲をつくります。

雲は雨や雪を降らせ、また、地表に水がもどってきます。雨水の中で、地表を流れるものは川となり、地下にしみこんだものは、地下水になります。

人の生活や産業に使われた水も、川や下水道などを通して、再び、湖や海に流れこみます。

このように、川の水は姿を変えながら、空と陸や海との間をめぐっているのです。

(監修・国司 真)

